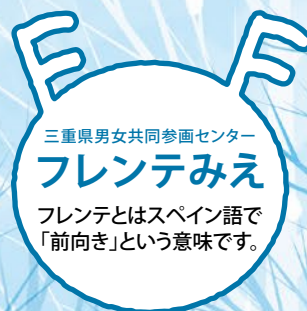


Frente



2025. 12

vol. 103

特集!

誌上 Report

飛躍の春に向け、蓄えるとき

吉田恵里香講演会「わたし」と「だれか」の物語
〜透明化される存在をエンタメで描く〜

お知らせ

- 長期休館(2026/1/4~4/30)のお知らせ

事業ご案内

- ホワイトリボンラン2026 in 三重 津

事業報告

- 働く女性のためのファシリテーション講座
ー上手な意見の伝え方、
わたらしい話し合いへの関わり方ー

- アソボ・マナボ・タノシソウブン2025
「アイラブミー」のワークショップ

- おつかれさま お母さん

- フレンテ にじいろプロジェクト
多様な性とわたしたち
SOGIE インクルーシブな学校環境づくりに向けて

- 令和7年度フォーカスみえ
自分を大切にするためのフェムテック

- 男性講座
スポーツ現場から学ぶ
男性が自分らしく生きるためのメンタルケア

不定期連載

- みえのひとびと 第15回
はしもと ひさと
橋本 妃里さん(株式会社 YCまつぶた PIG STORY)

コラム

- 急増!! セクストーション被害 ほか

「わたし」と「だれか」の物語 ～透明化される存在をエンタメで描く～

令和7年度からスタートした「プレリウド事業」の第1回講演会では、脚本家の吉田恵里香さんをお迎えしました。

吉田さんは、2024年4月から9月まで放送されたNHK連続テレビ小説第110作『虎に翼』の脚本を手がけたほか、アロマンティック・アセクシュアル(他者に恋愛感情を抱かず、性的にも惹かれない人たち)を主人公に、それぞれの「幸せ」や「家族のかたち」を模索する物語を描いたNHKドラマ『恋せぬふたり』で第40回向田邦子賞を受賞されています。

講演会では、アナウンサーの山上和美さんをナビゲーターに迎え、事前に寄せられた参加者からの質問も交えながら、吉田さんに創作への思いや作品に込めたメッセージについてお話いただきました。



「虎に翼」の脚本家になった経緯とは？

『恋せぬふたり』という作品をNHKでドラマ化していただいたのですが、そのときのプロデューサーの方が朝ドラを担当することが決まり、脚本家として私の名前をあげていただいたというのが一番最初です。

まだ向田邦子賞を受賞前だったので、私のような無名の作家に朝ドラのオファーをいただいたのには驚きました。しかも子どももすぐちいさかったんで、それでもオファーをいただいたのは、何かしら『恋せぬふたり』という作品で、面白さを感じてもらえたのかなというのがきっかけです。

「虎に翼」誕生のきっかけは？

私はもともと現代劇をずっと書いてきたので、最初は現代の話を書きたかったんです。ケア労働というか、介護や学校の先生、家事なども入るんですけど、誰かをケアすることに対する話を書きたかった。

考える中でモデルとなった日本初の女性弁護士であり、女性初の裁判所所長になられた三淵嘉子(みぶち よしこ)さんという人を知って、法曹(法律)がテーマでしたので、ケア労働の話も書けるじゃないかと、「虎に翼」の打合せの中で決まっていたという感じです。

朝ドラへの特別な思いとは？

私は脚本家として、朝ドラを49歳までに書くというのが目標でした。

それこそ『恋せぬふたり』の一番最初の打合せのときにも、プロデューサーの方に、「朝ドラって何年先まで埋まってるんですか?」と聞いていました。それを聞いておかないと、49歳までに書くための逆算ができないなと思って。

毎日15分放送する番組って日本だけじゃなくて、世界でも唯一まれな枠だと思っていて、しかも基本女性が主役っていう縛りしかない、最高の枠じゃないですか。それをずっとやりたかったんで、すごい思い入れはありました。なので、ありがたいことに予定より早く書いてすごうれいなと今でも思っています。

「はて?」の誕生秘話

ドラマ制作陣がほんとにおしゃべりで、打合せが始まる30～40分間、雑談からいつも始まるような現場なんです。資料を読めば読むほど、今の時代って良くなってきてはいるけど、理不尽なこととか、「なんでだろう?」と思うことがありすぎるね、という話をしているなかで、ふと浮かんだのが「はて?」で。決め台詞にしようとは思わなかったんですけど。

初校(1話)の時に書いて、「あっ。これ、いいね!」とみんなになって、最終的にはずっと使われる言葉になりました。沸いていった言葉なので、作品が終わっても、あのドラマ＝「はて?」みたいなのが残ってもらえるのは、すごうれいなと思います。

「思ったことは口に出した方がいい」ととドラマの中に何度も出てきますが、それでも大人になればなるほど「察して文化」が強くなるんです。でも、実は察せない。人は他人のことは察せないの、面倒なことが起きてても対話をしなきゃいけないという気持ちがありました。でも私も含め、誰もが対話慣れをしていないので、けんか腰になりがちです。

第一声がけんか腰になりがちなのがして、そういう意味で、「はて?」ってそんな強い言葉でもないですし、問いかけでもあり自問でもある言葉なので、まずはそういう話をできたらいいよねと思って作った言葉です。

ついに地上波でこういうドラマが！ と驚いた「恋せぬふたり」って？

「アロマンティック」という、他者に恋愛的兴趣を抱かない、もしくはほとんど抱かないという性的・恋愛的な指向の方や、「アセクシュアル」という、他者に対して性的な欲求とか興味を抱かない、もしくはほとんど抱かないという方のセクシュアルマイノリティの方がいらっやいます。「恋せぬふたり」は、その方たちを主役にしたドラマです。当事者である2人が、恋愛をとおさず、恋愛せずに家族になろうとする、生活を始めようとする内容です。

私たちの世の中はあまりにも、恋愛至上主義に作られています。恋人がいるいない、結婚するしないとか、「恋をすると変わるよ」「恋をしたら成長するよ」みたいなことがあまりにも前提で作られているので、そうではない方もいらっやる、もしくはどちらのセクシュ

アリティでもない人でも、恋愛に重心をおいてない方もいらっしゃる事が想定されていません。その結果、無意識の差別や偏見によってだれかを傷つけているかもしれないし、そもそも恋愛がなくても、絆は深められるし、その人の魅力は変わらないんじゃないかということを描いたドラマでした。

誤解されることはあると思っていて、当事者の方が怒るのはもちろん当然なんですけど、制作陣も怒られるからやめたっていうのは本当に良くないと思っているので、私は怒られながらも、間違ってしまったとしても、次の作品でよりよいものを作れるようにしていこうと心がけています。もちろん作品を作っている時は100点の内容をめざしていますけどね。ただ、当事者の人は先生でも教科書でもないの、全部教えてもらおうではなく、お互いが知ってというのが正しいのかなと思います。

そういう意味でのエンターテインメントとして、ネタとして消費してしまわない、というのはすごく気をつけていて、それが自分の中では寄り添い方なのかなと思います。

それにちゃんとわかろうとしている人のそばには当事者の方たちも一緒にいたいと思うでしょうし、「知らない、わかんない」と思っている人のそばからは、やっぱり離れていっちゃうと思うので、どういう人でいたいかっていうことが大事な気がします。

ご自身をブラッシュアップするために、 どんなことをしていますか？

自分がなにか間違ったり偏見を持ったりしているという前提を持つことが大事だと思っています。「私は差別をしていません」とか「私は偏見を持っていません」とか「私は常に中立です」と言っている人が一番危ないと思っているので。

なにかしらの偏見は誰もが持っているし、ゼロか100かで決まるはずはないのに、その真ん中にいるって思っている人は無意識のうちにいろんなものを踏みつけているのではないのでしょうか。

「できるだけ俯瞰でいたり、中立でいたいと思っている」みたいなことだったらわかるんですけどね。ブラッシュアップかはわかりませんが、そういったことを日々気を付けているかもしれません。

子育てと仕事の両立？

基本的に仕事は子どもが保育園にいてる間がメインで、そのあとは寝てからという感じです。本当に忙しい時は、家族に子どもを迎えにってもらって仕事をするというのもあります。

一番捗るのは深夜だったんですが、今では締切の近さかな。締切の近さでやばいとなってやるというのが多いと思います。

あとバランスはとれていないですね。私が女性だからっていうのもあると思うんですけど、さまざまな現場でよく「仕事と家事の両立」って絶対言われるんですけど、それは多分、私が女だからですよ。内心「男の脚本家に言うことなんてほとんどないじゃん」って思っています。

両立するポイントはってよく聞かれるんですけど「ないです」って言っています。

いつもどっちかがガタガタで、もしくはどっちもガタガタですって言うようにしています。両立しているって言っちゃうと、両立することが当たり前みたいになるじゃないですか。そうすると、この人は両立している、とロールモデルにさせられてしまいます。私の仕事量は、子どもが保育園に行っている間にできるんだって言われちゃうと、「いや、ぜんぜん徹夜するし」って思いますし、寝ない時なんていっぱいあります。なるべく子ども中心に生きていますので、5年くらい会っていない友達だっているし、そういう意味では全然両立はできていません。けれど自分にとって両方とも手放せないものだったので、ガタガタで生きています。

人によってはどっちかをセーブするってことも絶対あると思うし、それが間違えではないんですけど、私は子どもも大好きだし、仕事も全力でやりたかったので基本的に無理をして生きています。そしてそれは全然真似しないでくださいって思っています。

仕事を辞めたいとき？

仕事を辞めたいと思ったことはないかもしれないですね。でも全部投げ出したいとかは毎日のようにあります。仕事の締切が重なったときなんかは特に。

これは自分の悪い癖なんですけど、基本的に100%の自分が毎日続くと思って締切を立てちゃうんです。でも実際にはそんなことはないの、どんどん締切がたまってきたりすると、それこそ子どもと一緒に1か月ぐらいどっかいきたい、とか思うことはあります。でも基本的には仕事をしている自分も好きだし、子どもという自分も好きなので、なんとかやっているのかなと思います。ただ、自分の中で何か残したいっていう気持ちとともに書いた「虎に翼」が終わり、こうやって呼んでいただけるくらいになったので、一つの点は打てたのかなと思っています。

もちろん、ずっと書き続けたいって思っているし、ずっと面白いものを書きたいとは思っていますが、執着はせずにいようかなっていうのは思っています。

仕事を辞められないなと思うとき？

それも毎日あります。ドラマとかでほんとに煮詰まっていたけど、すごくいいシーンが書けたとか、送った原稿でおもしろかったって言ってもらえたり、視聴者の方から声をいただいたり、お手紙をいただいたりするだけで全然違います。

少し前に「君の花になる」というTBSで放送していたドラマを書いていたんですけど、小学生の子どもたちに「見ててめっちゃ好き」と言ってもらいました、そういうこともあるので、楽しいことも辛いことも両方いっぱいありますけど、基本楽しくやっています。

吉田さんからはほかにも事前に参加者の皆さまから募った質問に答えていただき、
たくさんの「自分らしく生きるためのヒント」をいただきました。
今後もフレンテみえではたくさんのイベントを企画していきます。皆さまのご参加をお待ちしています！

みえのひとびと



はしもと ひさと

橋本妃里さん 株式会社 YC まつぶた PIG STORY

今回は、松阪市で「松阪豚専門店 まつぶた」を経営する橋本さんにお話を伺いました。

2025年10月で創業9周年を迎え、節目の10年目に入った橋本さん。2022年からは養豚業にも携わり、「松阪豚」という唯一無二のブランドを守り、次世代へつなぐ活動を続けています。松阪豚との出会いから事業承継、地域とのかかわり、そして従業員一人ひとりの「夢」を大切にする職場づくりまで——橋本さんのこれまでと、これからの思いを伺いました。



松阪豚と出会ったきっかけを教えてください。

最初はただ「美味しい豚肉を食べた」という経験からでした。前の晩に焼かれた冷めた豚肉を食べたのに「なんて美味しいんだろう」と感動したんです。

そこからどのように関わることになったのですか？

「松阪豚」という名前を調べてみたのですが、当時はまだブランド化されておらず、検索しても「松阪極み豚」や「松阪ポーク」など様々な名前が出てきて、どれが自分の食べた松阪豚なのかわからない状態でした。

私の食べた松阪豚をくださった方に「こんなにおいしいのにブランド化されていないのはもったいない」と話したところ、直接伝えた方がいいと言われ、先代の山越さんに会わせてもらえることになりました。

山越さんは松阪豚を40年かけてつくりあげられた方で、日本養豚協会の立ち上げにも関わったすごい方でした。こんなにすごい方ともう二度と会える機会はないと思ったので、初めて食べた時の感動と「松阪牛のようにブランド化したらいいの」という思いをそのまま伝えました。

山越さんは商売人ではなく、職人気質の方で、「跡継ぎはいないが、自分が養豚家を引退するまでこの豚を育てられればいい」と話されていました。しかし、なぜ松阪豚を作ったのか、どんな苦労をしてきたのかを伺ううちに「このまま山越さんの代で終わってしまうのはもったいない」と思っただけです。すると山越さんから「そんなに言うんだったらあんたがやったらええやん」と言われました。当時私はただの会社員だったので「私はただの会社員なので」と伝えたら、「あんたはもしかしたら誰もやらなかったことをやるかもしれない」と言われました。

その言葉が転機となったのですね。

はい。当時はただの会社員でしたが、「私にできることはなんだろう」と考えるようになりました。そこでまず最初に豚肉をさばく練習を始めました。山越さんから直売所の裏を借りて、YouTubeを見ながら独学でさばく練習をしました。さばくための豚を買うために、会社員の給料を全部つぎ込み、冷凍庫まで買いました。

さばいた肉を近所や職場の人に配っていたら、「買いたい」という声がどんどん増えていきました。気が付けば30人以上が応援してくれていて、商売としてやっていこうと決意しました。

当時は山越さんがまだ現役で、生産された松阪豚を直接卸してもらって販売を始めました。最初は「一人でぼちぼちやっていけばいいかな」と思っていたんです。ところが、いざお店をオープンしてみると、ありがたいことに想像以上に多くの方にきていただきました。翌年には隣のスペースも借りてお弁当やデリカの販売も始めました。

そこから養豚業も受け継ぐことに？

そうです。2022年に山越さんが体調をくずされ、事業承継することになりました。農場には通っていたものの、いざ自分がやるとなるとわからない事ばかりでした。牙やしっぽを切ったり、ワクチンを打ったり、生きている子豚を傷つける作業に心がついていかず、正直病みました。

それでも、山越さんの代からの社員さんが支えてくださり、自分で全ての作業ができるようになりました。

現在は常時400～500頭を飼育しています。三重県内では小規模ですが、自分たちの手の届く範囲で、命を丁寧につなぐことを大切にしています。

地域の方との関係づくりで苦労されたことはありますか？

山越さんが養豚を始めた頃は、まわりに田んぼと山しかなかったのですが、次第に民家や商業施設が立ち並び、今では“街中養豚”になりました。山越さんの時代は、皆さん事情をわかっていて家を建てていたため問題はなかったのですが、私が事業を継いでからは直接、養豚場のせいで長年地域の皆様が抱えてこられた問題をうかがうようになり、悩んだ時期もありました。

そこで、年に1回社員全員で川掃除をさせていただいたり、豚舎の前の道が狭く危なかったので牧垣を取り払ったりと地域のためにできることを考え取り組み始めました。少しずつですが、地域との信頼関係が築けていると思います。

性別や年代も様々な方が働かれているかと思いますが、“働く環境づくり”において何か工夫されていることはありますか？

2年前から「未来ミーティング」という1on1面談を始めました。従業員一人ひとりに「未来チャート」を書いてもらい、その夢をどう後押しできるかを一緒に考えています。

シフトも自由制にしており、働けるときに好きな時間で働けるようにしました。その結果、無断遅刻・無断欠勤はゼロ。辞める人もいません。

さらに「Thanksチケット」という仕組みもあり、感謝の気持ちをチケットに書いて私から全員、そしてスタッフ同士でも渡し合います。5枚集めると2,000円分の買い物ができます。職場の雰囲気明るくなり、笑顔で働いてもらえるようになりました。

最後に、今後の目標を教えてください。

まずは「松阪豚」で地域団体商標を取得することです。松阪牛や松阪鶏焼き肉はすでに登録されていますが、松阪豚はまだ取れずにいます。これは単にブランド価値をあげたいということではなく、松阪豚を扱ってくださっている取引先のためでもあります。「真正正銘の松阪豚」という証になることで、胸を張って扱っていただけるようにしたいです。

もう一つは、組織作りです。従業員一人ひとりが自分の夢を叶え、その先のステップに進むことになったとしても、それを心から応援できるような職場にしたいと思っています。みんなが安心して挑戦できる環境を整えて、次の世代へと力をつないでいきたいです。

この二つが、松阪豚を全国、世界に広めていくために大事なことだと思っています。

松阪豚専門店 まつぶた
(株式会社 YC まつぶた PIG STORY)
〒515-0011
三重県松阪市高町220-4
TEL:0598-30-8029



働く女性のためのファシリテーション講座 —上手な意見の伝え方、 わたらしい話し合いへの関わり方—

開催日

7月26日(土)、8月2日(土)・30日(土)

「会議や話し合いの場で自分の意見を上手く伝えられない」といった悩みを抱える働く女性を対象に、ファシリテーション講座を開催しました。講師には、ナラティブ・エナジー代表の竹本記子さんをお迎えしました。

基本的なファシリテーションの技術や対話に向かう姿勢に加え、女性が会議に苦手意識を持ちやすい背景や、アンコンシャスバイアス（無意識の偏見）といったジェンダーの課題にも丁寧に触れ、多角的な学びが得られる内容となりました。3日間にわたる講座は、グループワークを中心に進行し、参加者同士が活発にコミュニケーションを取りながら実践的に学び合う姿が印象的でした。

参加者からは「伝えることに苦手意識がありましたが、講義の学びを今後の生活に活かせそうです」「視野が広がり、人と話すことの大切さを実感しました」といった声が寄せられました。ファシリテーションを通じて、対話の大切さや自分の課題への気づきを深める機会となりました。



開催日

8月10日(日)

アソボ・マナボ・タノシソウブン2025 「アイラブミー」のワークショップ

夏休みのお子のおまつりタノシソウブンで、NHKのアニメ「アイラブミー」の「じぶんの思う『かわいい』」帽子をお友達にヘンドと言われた」というエピソードを題材にしたワークショップを行いました。400名を超える多くの方にご参加いただき、用意した工作材料がほとんどなくなってしまったほどでした。子どもたちは「アイラブミー」のアニメを食い入るように見て、積極的に感想や意見を返してくれました。アニメの後の工作では、みんな懸命に思い思いの「かわいい」帽子を作りました。渾身のオリジナル帽子を被って「見て!」とスタッフに伝えに来てくれる小さなアーティストたちは、みんな得意気で満足そう!なかには、子どもより張り切って大作をつくる大人の姿も。

好きなもの、「かわいい」と感じるものはみんな違います。それぞれが自由に思いっきり自分の「好き」を表現できる珠玉の時間になりました。



開催日

8月23日(土)

おつかれさま お母さん

様々な悩みを抱えながら子育てを頑張っているお母さんを対象にした講座を開催しました。講師はフェミニストカウンセラーの福田由紀子さん。現在の日本社会では、家事育児の分担が母親に偏っていることや、母親になることで仕事のキャリアや趣味を諦めたり、一人の時間が持ちづらかったりする現状があることを話していただきました。「いい母親にならなければ」などの「べき思考」で自分を縛るよりは、母親が安全に幸せに過ごすことや自分を後回しにしないことで、子どもへも余裕をもっていい関わりができる話もありました。

グループワークでは「いい母親って何?」「普段のセルフケアどうしてる?」など、悩みや気持ちをお互いに共感し合い、つながりを感じることができました。頑張っている自分を褒めていいと思える時間となり、その後のCHELBANさんによる「自分に向けて花束を作ろう」のワークショップでも「わたし」へのごほうびとして、参加者の皆さんが花束作りに没頭している姿が印象的でした。



フレンテにじいるプロジェクト

多様な性とわたしたち SOGIEインクルーシブな学校環境づくりに向けて

開催日

8月24日(日)

令和7年度から新たに始まった性の多様性に関する理解を広げるための事業、フレンテにじいるプロジェクト。

今回講師にお迎えしたのは認定NPO法人ReBitさんです。

学校向けの研修会を数多く実施しているReBitさんより、教職員および教育事業関係者の皆さんに向けたSOGIEインクルーシブな学校環境づくりのための講義をしていただきました。

特にLGBTQの中高生のうち94.6%が担任の先生に安心してセクシュアリティについて相談できない、と回答しているという調査結果が紹介されたときには、参加者の方々も現状を深刻に受け止めている様子でした。

後半では教育現場で起こりうることとその対応方法について、いくつかの事例をもとにペアワークをしながら考えました。正解があるわけではないテーマに参加者の皆さんはとても悩んでいる様子でしたが、ペアワークをとおして皆さんなりの答えを出しているようでした。

その後、講師よりALLY(理解者、支援者)について解説いただき、ALLY先生が学校にいる大切さや、ALLY先生をめざすためのポイントを紹介していただきました。



令和7年度フォーカスみえ

自分を大切にするためのフェムテック

開催日

9月13日(土)

今回のフォーカスみえでは、「フェムテック」をテーマに、日本における植物療法(フィトセラピー)の第一人者である森田敦子さんを講師にお迎えし、女性のライフステージにおける健康課題や、更年期障害、デリケートゾーンケアなど、幅広い視点から講演いただきました。

講座では、現代女性が直面する健康上の課題や、デリケートゾーンの重要性を中心に、ハーブの処方例など、日常生活に役立つ実践的な知識が多く紹介されました。

印象的だったのは、「自分の体の中にあるテクノロジーを理解し、自然なかたちで活かすことが重要」という視点が丁寧に伝えられた点であり、多くの参加者にとって新たな気づきや学びのある内容となりました。

参加者の皆さんからは、「フェムテックに興味がありましたが、はずかしい事でなかなか人に聞けなかったのでもって勉強になりました。」「初めてのフェムテックの話は大変興味深く面白かったです。今後の人生に活かせると感じています」などと言った声が寄せられました。



男性講座

スポーツ現場から学ぶ 男性が自分らしく生きるためのメンタルケア

開催日

10月4日(土)



男性は、「男らしさ」や「こうあるべき」といった社会的なプレッシャーの中で生きづらさを感じるものが少なくありません。今回の男性講座ではスポーツ心理学者の荒木香織さん(株式会社CORAZON チーフコンサルタント)を講師に、男性が自分らしく生きるための「心の習慣」について学びました。

荒木さんは、ラグビー日本代表や三重ホンダヒート等でメンタルコーチを務めている経験から、「心は折れるもの」と受け入れる大切さを語られました。また、睡眠や食事など生活習慣を整えること、自分の「好きな作業」「嫌いな作業」など自分を知ること、自分でコントロールできることを見極めること、学び続ける情熱を持つことの重要性にも触れられました。お話の最後には「助けてください」「教えてください」と素直に言えることが、自分を大切に第一歩だと伝えられました。

講座後の質疑応答も活発に行われ、参加者からは「こうあるべき、という考えに縛られなくていいと思えた」「気持ちが軽くなった」といった感想が寄せられました。



お知らせ

三重総合文化センター休館のお知らせ

フレンテみえ 1月から休館します

三重県男女共同参画センター「フレンテみえ」がある三重県総合文化センター。1994年の開館からあつという間に31年。これまで少しずつ修繕を行ってきましたが、今回初めての一斉休館を伴う大規模修繕工事を行うこととなりました。休館中はセンター内の立ち入り制限および、ご利用サービスにも変更がございます。皆様には大変ご不便をおかけしますが、ご理解ご協力のほどよろしくお願いいたします。

- 【休館期間】 令和8(2026)年**1月4日(日)**から**4月30日(木)**まで ※年末年始(12月29日～1月3日まで)休館
※原則館内にお入りいただくことはできないため**窓口対応は休止**となります。
※電話・FAX・メール・問合せフォームなどは、従来どおり対応いたします。
※情報コーナーの利用、本の貸出は休止します。
※パートナーグループ様への施設利用も休止します。(5月分の貸出受付は2月1日より開始)

【電話対応時間】 9:00～17:00

【フレンテみえ相談室】 休館中も変わらず実施します

休館中は

ホームページやSNSを使つての情報発信をはじめ、フレンテみえの職員らが皆さまの会社・学校等に伺い、男女共同参画にまつわるテーマについてお話する出前講座「フレンテーク」で県内各地に出ていきます。企業研修、学校の総合学習、教職員向け研修、地域の人権啓発研修などにぜひご活用ください。



フレンテーク
についてはこちら!



三重県総合文化センター
休館のご案内

事業予告

3/8

ホワイトリボンラン2026 in 三重 津



ホワイトリボンランは「走ろう。自分のために。誰かのために」をスローガンに、3月8日の国際女性デーにあわせて行われるチャリティランイベントです。全国各地の参加者が同じ公式Tシャツを着てそれぞれの場所で走り、女性の健康と命を守る願いを一つにつなげます。エントリー費の収益は全て寄付され、世界の女性の命と健康を守る活動に役立てられます。

今年は新たに『ウォーキング部門』がスタート! 走るのが得意な人も、ゆっくり歩きたい人も、思い通りのペースで参加できます。緑豊かな公園の中で気持ちよく身体を動かして、あたたかい気持ちをつなげてみませんか?

さらに、大人2名以上と一緒に申し込むとエントリー料がお得になる「仲間エントリー」も登場。ご家族や友人を誘って、みんなで一緒に楽しみましょう!

事業案内

- 日時 3月8日(日) 10:00～12:00
会場 HOWAパーク(中勢グリーンパーク)
対象 どなたでも
エントリー費 大人(25歳以上) 5,500円
中学生～24歳まで 4,000円
子ども(小学生以下) 3,000円
仲間エントリー:大人2名以上で
申し込むと4,800円/一人
←(お申込みは特設サイトから)



- 定員 30名程度(事前エントリーが必要です。
エントリー締切:1月20日(火))
主催 公益財団法人ジョイセフ

「急増!!セクストーション被害」

みなさんは「セクストーション」という言葉をご存知ですか？「セクストーション」とは「Sex(性)」、「Extortion(脅し・脅迫)」という二つの言葉を組み合わせた合成語で、性的なゆすりや性的な脅しという意味です。

被害者支援を行うNPO法人「ぱっぷず」によると、セクストーションの被害相談は令和5年度は528人、令和6年度はその3倍以上の1,864件に急増。令和7年度は7月時点で1,000件を超える相談が寄せられ、前年度を大きく上回る見込みとのことです。被害の増加の背景にはAIの進歩により、言語の壁が薄くなり海外から日本人が標的となるケースが増えているようです。被害相談では女性が32%、男性が68%と男性の被害が増えているのが特徴です。

セクストーションの手口とは、加害者はSNS等を通じて親密感を持たせうで、性的な画像の交換を持ち掛けます。被害者が自身の性器や顔等の写った画像を送ったところ、加害者より「この画像をばらまかれなければ金銭を支払え」などと脅されてしまいます。しかも、一度金銭を支払ったからといって脅しが止まるわけではなく、その後も繰り返し金銭要求は続き、だんだんと要求する金額が上がるなどエスカレートしていく傾向にあります。

一般的にレイプ等の性被害は女性が圧倒的に多いとされるなか、なぜセクストーションの被害相談は男性が多いのでしょうか。

これまで男性は性の主体として、性的なコンテンツを消費する側でいることが多く、自身の性が消費される側になりうると意識が希薄でした。そのため、性器等の画像を送ることが性被害につながるというイメージを持ちにくく、「自分は大丈夫」と安易に画像を送ってしまいがちです。

こうした被害を防ぐためには、性別に関わらず性的な画像は撮らない、送らないという意識を徹底することが大切です。そしてもし被害にあってしまったら、なるべく早く信頼できる人や場所に相談することで被害を最小限に抑えることができます。性に関することは相談しづらく、ためらってしまう人も多くいるでしょう。しかし、あなたの力になりたいと思っている人たちは必ずいます。勇気を出してまずは相談してください。

ご相談はこちらから

フレンテみえ相談室のご案内

NPO法人ぱっぷず相談窓口

性犯罪被害相談窓口「#8103」(ハートさん)

性暴力相談窓口「Curetime」(キュアタイム)

フレンテみえって、なに？

三重県の男女共同参画社会を推進する拠点施設として津市の三重県総合文化センター内に平成6年オープン。情報発信・研修学習・相談・調査研究・参画交流および人材育成の「6本の柱」で、様々な事業を展開しています。ぜひ皆さま、お気軽にお立ち寄りください！

～詳しい情報はホームページまで～

フレンテみえ 検索

生き方・家族・人間関係・離婚・職場 などなど… 性別にとらわれずに自分らしく生きるために、様々な悩みの相談をお受けします

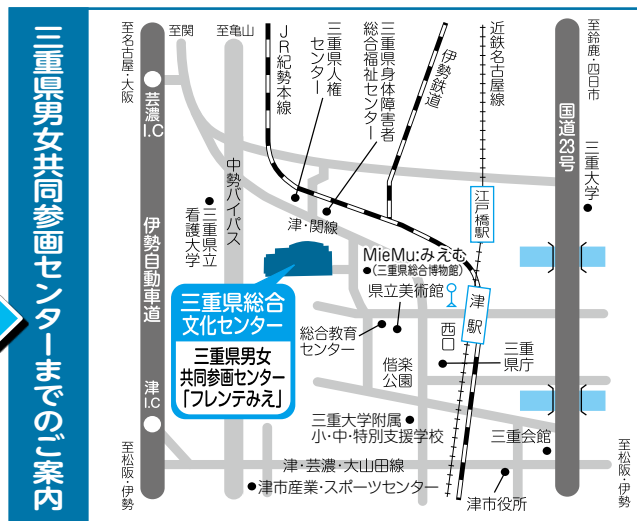
女性のための電話相談 秘密厳守・相談無料

フレンテみえ相談室 専用ダイヤル **059-233-1133**

相談時間	曜日	月	火	水	木	金	土	日
朝 9:00～12:00	休館日	●	●	●	●	●	●	●
昼 13:00～15:30	休館日	●	—	—	●	●	●	●
夜 17:00～19:00	※	—	—	●	—	—	—	—

※祝日の場合「朝・昼」相談あり(翌平日が休館日)

フレンテみえ相談室のご案内
(切り取ってご利用ください)



休館日 毎週月曜日 年末年始 (12月29日から1月3日まで) 交通 ■バス/津駅西口1番のりばから約5分 ■徒歩/津駅西口から約25分 ■自転車/伊勢自動車道津雲濃インターから約10分、津インターから約10分 ※駐車場は1,400台(無料)。できるだけ公共の交通機関をご利用ください。

発行 三重県総合文化センター 三重県男女共同参画センター フレンテみえ 〒514-0061 三重県津市一身田上津部田1234番地 TEL:059-233-1130 FAX:059-233-1135 URL <https://www.center-mie.or.jp/frente/> E-mail: frente@center-mie.or.jp

再生紙を使用しています。